

アットウシ 〈鞆皮衣または樹皮衣〉*

*アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られており、鞆皮衣や樹皮衣ともよばれます。

C0201

北海道／日本

アイヌ文化にであう2—樹皮からつくる着物



参照資料

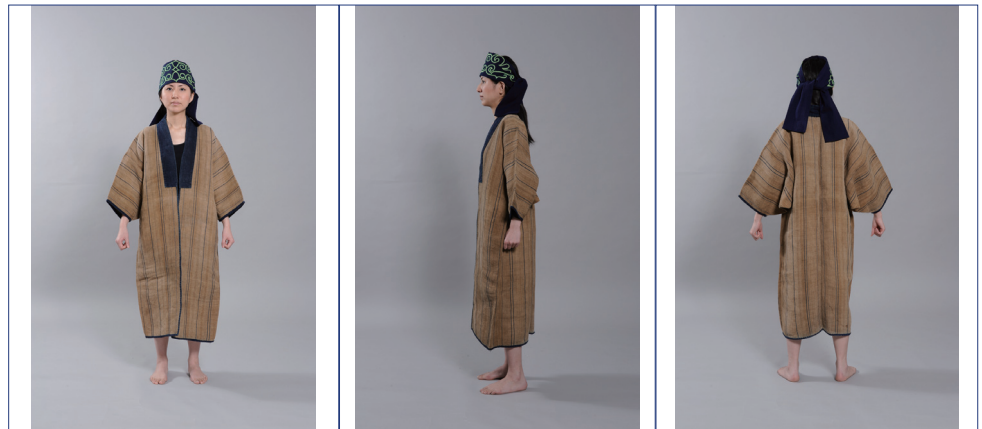
『アイヌ生活文化再現マニュアル：織る【樹皮衣】』

『アイヌ文化の基礎知識』p.76～p.97

『アイヌ民族：歴史と現在 小学生用』p.8、p.9

『アイヌの人たちとともに』p.22、p.23

『アコロイタク』



アットウシは、オヒョウという木の内皮の繊維を利用して織られています。本州以南でみられる麻、シナ（紵）の布に似ています。筒そでの着物で、おくみ（左右を合わせるところ）がありません。また、労働する時は帯でしめます。

女性の場合は、モウルと呼ばれる肌着を着てから羽織ります。

このアットウシが作られたのは、19世紀後半といわれており、独特の風合いが生まれています。木綿の紺糸を織りまぜた縞模様がみられます。

佐々木先生からのひとこと

アイヌ語には日本語にない発音があります。アットウシの「シ」のように小さく表記し、読むときは軽く発音します。くわしくは『アコロイタク』を見てみましょう。

アットウシは水や風にも強いので、本州でも漁師などが使用していました。